

モデル事業名	メディアを通じた中山間地域の出会い・交流創出プロジェクト
活動団体名	特定非営利活動法人 メディアネット宇陀
ホームページ	http://medianetuda.jp
所属/ 担当者名	副理事長 番組制作ディレクター 稗田 睦子
連絡先	TEL 090-8377-9841 Eメールアドレス paruko@vega.ocn.ne.jp
活動地域	宇陀市

### ● 活動地域の概要

- 宇陀市は奈良県の中山間地域、大阪と名古屋の間に位置する高原のまちであり、平成18年1月1日に合併によって誕生
  - 交通の利便性に恵まれながら、人口は減少の一途を辿り、高齢化と過疎化による集落機能の維持が困難な地区や、耕作放棄地など自然環境の荒廃の進む地区が増加
- 総人口；平成7年までは4万人前半台で推移→平成12年には4万人台を割り込む→平成17年37,183人（国勢調査）
- 年齢構成；平成7年を境に老年人口比率が年少人口比率を上回り、平成17年には老年人口比率26.0%、年少人口比率11.4%と急速に少子高齢化が進展



間伐されず放置されたままの森林



深刻な鳥獣被害と損なわれる生活環境・里山景観

### ● 活動地域の課題

- 市内には、国宝室生寺や重要伝統的建造物群保存地区・宇陀松山といった第一級の歴史資源のほか、高原の豊かな自然を土壌とした伝統と特色ある農林畜産資源を有しているが、それらが地域の活力再生にあまり活かされていない
- 素晴らしい資源を有しているにも係らず、住民がその価値やそこでの営みを認知しておらず、また個々の活動が「点」に留まっている。
- 地域の実情を伝え、シーズとニーズを結び付けられる人材が不足している。

### ● 活動の内容

(全体)

- 平成20年8月住民が自らの手で、知られざる宇陀各地の人と資源とその魅力を、地域メディアを通じて生き生きと発信し、新たな出会いや交流を創出しようと、NPOを立ち上げ活動を開始した。11月から宇陀市CATV自主放送が開局と同時に自主制作番組を提供し放送され今も継続し市民と行政の期待に応えて今後も続けることになる。
- 番組制作については、宇陀市と月1回の定例会議を行い月2回の更新で4番組を市内約12,600世帯向に放送している。平成21年1月にはホームページを開設し、番組を動画公開と取材情報や番組に盛り込み出来ない市民活動、自然の風景などの情報を文字や写真で随時アップデートし、市内外に発信している。また、21年2月にホームページを使って都市部住民にWebアンケートを行い、宇陀市のイメージや交流を行うための希望などを調査した。

(最近1年間の進捗など)

- 番組制作会議を毎週開催が定着し、スタッフ数人がディレクターとともに番組企画、取材計画などを行っている。スタッフは自由参加で固定メンバー以外も参加し、新たなスタッフも加わり大きな戦力となった。
- 取材・撮影対象は、地域の伝統行事や歴史文化、観光スポット、住民主体の様々な催し、むらおこしと農産物ブランド化など産業活性化の取り組みなどをである。今年は新たに人物訪問、知られざる景観を加えた。合併した4町村の情報発信のバランスに配慮し、域内の情報共有化や住民の一体感の醸成を図っている。
- 今後は、番組のマンネリ化を防ぐため「文化財、歴史、観光、100年企業など」シリーズ番組も企画している。
- ホームページは、より見やすくタイムリーでインパクトのあるものにするべく、デザイン、色合い、構成などを一新しリニューアルした。北海道、関東の地域出身者が、特に興味深く関心を寄せている。

## ● 活動の成果

### ・全体

(活動の成果、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

平成20年11月から月2~4本の番組で186件(22.11月まで)をまちの話題として取材し放送してきた。

平成21年3月に244人の視聴アンケートを行った結果76%がこの番組を観ており、行政の同様の番組の53%を上回っている。

また、取材を通して各地区の人達とのコミュニケーションが深まり、わたしたちが媒体となり各地区でむらおこしをしている人達の交流する場を作る素地ができつつある。

そして、視聴者からの取材要請も増えてきており、地域の人達の地域活性化への熱意をメディアを通して発信出来ることにあらためてその意義の大きさと責任の重大さを感じている。

このことが、地域で地域活性化に取り組んでいる人達のこれからのパワーアップの役割を担うものと自負している。

例えば、黒豆作りの農家の人々の、ブランド化に向けたイベントの番組は、売上も伸び今年は例年の会場より大幅に規模を拡大し県の「アニマルパーク」での開催へと発展させた。

行政は同様に地域の催しなどの番組を制作しているが、いわゆるヤクシヨ感覚の域を脱することが難しく、市民目線でのわたしたちの番組に市民はより親しみを持っている。行政も今後のさらなる充実を期待している。

行政との協働が進展している。市長改選で私たちの会員でもある市長が4月に就任し6月から月1回の市担当課との協議を続けている。そこで、かねてから要望していた「視聴者アンケート」の実施が決まり、新たに提案した「市民投稿ビデオ募集」も11月から実施となった。



### ・直近1年間の成果など

(活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

- ▶ 国宝でもある「宇陀水分神社」の秋の祭礼の太鼓台は、6カ所の地区から参加するが、今年は「私の地区をクローズアップして」と要望がありマンネリ化しそうな番組がまた違うアングルで制作できた。
- ▶ 昨年10月に始めた「サークル紹介」コーナーで取り上げた各サークルからは、放送を観て新人が入ったとの喜びの声をいただいている。取材を依頼してくる団体も継続している。
- ▶ 大自然のなかで行った「立ち竈とダッチオープン」の野外料理の番組では視聴者からもっと詳しく「立ち竈」の造り方の放映をとリクエストを頂き、材料の竹切りから組み立て、そして調理までの番組を制作した。
- ▶ 生前に戒名を授かる「伝法」の行事を伝える番組では、信者さんたちから一生の記念に是非DVDをと切望され、地域の人達への感謝の気持ちを受け取って頂いた。
- ▶ 戸数16戸の小さな村落での大晦日の火祭りは昨年に引き続いての番組となったが、昨年の番組を見てのサポーターも参加してきた。



## ● 今後の課題及び展望

### ・課題 (活動を通して発見された課題等を記入)

人材の確保：会員、活動スタッフとも発足時より増加はしているがまだまだ人手不足である。

財源確保：ボランティア活動による番組制作であってもそれなりの費用が必要である。財源を市の委託費に大きく依存しており、市の財政も厳しい状況下にある。さりとて中山間地区の小さな市で大企業はなく中小零細企業は財原を期待できる存在ではない。

### ・展望 (今後の取組みや検討について記入)

**地道な活動**：地域に根ざした番組・HP制作を通して人とのコミュニケーションのなかで人材を発掘、育成していく。そして、市民に親しまれ、より多くの視聴者を獲得することが人材確保へとつながるものと一層の努力を積み上げていきたい。

また、新たな試みとしての行政と協働の「市民投稿ビデオ」事業にも新たな人材を期待している。

**新たな模索**：ICT先進国ではCATV事業者が売上の5%を行政、教育、市民の番組制作・放送のために拠出している。この種自主放送を市民サービスの新たなインフラと位置付け、水道、道路のような社会インフラとして造成していくべきとの信念を持って、小さな声を少しでも広く伝えていくことを続けていきたい。

### ● その他 (自由記述)

**メディア教育の必要性**：地域情報の発信が地域活性化の出発点と位置付けそのための市民への教育が必要である。熊本県山江村の、村民へのメディア教育のような事業を行政とともに実現していきたい。